

平成 23 年度  
第 2 回 櫛引地域審議会  
会 議 録



期 日：平成 23 年 8 月 23 日(火)13:30～

場 所：櫛引公民館多目的ホール



## 平成 23 年度第 2 回櫛引地域審議会 会議録（概要）

○日 時：平成 23 年 8 月 23 日(火) 午後 1 時 30 分から午後 4 時 10 分まで

○会 場：櫛引公民館多目的ホール

○出席者：敬称略

(委員) 前田勝、平藤博巳、小林貢、澤川宏一、渡会昇、松浦安雄、佐久間泰子、  
秋山武弥、齋藤平、金内勝雄、小林良市、五十嵐繁、畑山久恵、伊藤信、成田勇、  
遠藤一男、芳賀俊之、阿部元喜

(市側)・支所長山口朗、総務課長今野勝吉、教育課長八重幡久喜、産業課長齋藤功、建設  
環境課長佐藤正明、市民福祉課長本間俊司、市民福祉課主幹佐藤巖、総務課コミ  
ュニティ防災主査宮崎哲、同課総務地域振興主査菅原正一、同課主任清和幸裕、  
主事佐藤文博、同 梅津一成

・企画部地域活性化推進室係長三浦裕美

### 1、開会 13:30

#### 今野勝吉総務課長（以下総務課長）

ご案内の時間となりましたので始めさせていただきます。

委員の皆様にはご多用のところ出席いただきありがとうございます。本日は委員 20 名のうち 2 名の委員の方から欠席する旨の連絡をいただいております。過半数以上の出席をいただいておりますので、本日の会は成立いたします。

ただ今から平成 23 年度第 2 回櫛引地域審議会を開会いたします。

始めに前田会長からごあいさつをいただきます。

### 2、あいさつ

#### 前田勝会長（以下会長）

こんにちは。本日は第 2 回櫛引地域審議会のご案内を皆様に差し上げましたところ、委員各位には大変お忙しいところご出席いただきましたこと、まずもって御礼申し上げたいと思います。

今年の夏は大変に暑い、猛暑の夏でした。庭の草木に必死になって水をかけるような夏でございました。花活きて、人が枯れるような厳しい暑さの夏だったと思います。全国的には熱中症による事故が多く発生いたしております。また、福島原発につきましてもはまだまだ収束のめどが立っておりませんで、多くの被害が現在出ております。大変に憂慮しているところでもあります。1 日も早い収束を期待するものであります。

また、国際的には EU やアメリカ発の金融不安がございまして、現在我が国の円は大変な円高になっておりまして、国内産業の空洞化が心配されています。

そんなニュースの中で、明るいニュースもございまして、なでしこジャパンがワールドカップで優勝しました。被災地の多くの皆さんや国民を勇気づけました。

さて、本日の審議会は先の審議会で委員の皆さんからご議論いただいてテーマを決定いただいたわけですが、今年度は「地域コミュニティの活性化方策について」ということになっております。これから当局から若干資料の説明をいただきながら、委員の皆さんからの活発なご議論を期待しまして私のあいさつとさせていただきます。本日は本当にご苦勞様です。

#### 総務課長

引き続き山口支所長からごあいさつを申し上げます。

#### 山口朗支所長（以下支所長）

委員の皆さん、本日はまことにご苦勞様でございます。前回から3ヶ月が経過し、少し間隔が開きすぎた感じがしますが、どうぞよろしく願いいたします。また、今回初めてという委員の皆さんもいらっしゃいますので、どうぞよろしく願いいたします。

私からはせっかくの機会でございますので、昨年の櫛引地域審議会のテーマでございました「地域社会で取り組む結婚支援のあり方」という検討結果を基に、櫛引庁舎が今年度取り組んでおります婚活支援に関する事業の進捗状況について若干報告させていただきたいと思っております。

今年度は若者が結婚しやすい環境づくりということで、地域の青年が結婚を前向きに捉えられるように意識啓発、それから自分磨きのための研修セミナー、出会いの場の開催事業を実施しております。具体的には、第1弾としまして、先月この会場で婚活支援講演会を開催しまして100名を超える多くの皆さんから聴講をいただいております。また、先月24日には独身男女を対象に研修セミナー、そして今月7日には、婚活パーティということでグランドエル・サンを会場に、出会いの場を設定させていただきました。

パーティへの参加者の概要に関しましては新聞報道にもありましたが、男性34名、女性27名、計61名の参加者でございまして、結果はカップル誕生数が櫛引地域を含めまして7組、2割を超えるカップリング率ということで、大変良い結果がでております。また、このセミナーとイベントにつきましては次回、11月にも予定をしております、1組でも多くのカップルが誕生することを期待しております。

そしてこの取組みにつきましては、現在松根地区でも進められておりますし、市全体としても事業着手につながっております、「縁結び支援事業」として、婚活に前向きな企業・団体からも協力していただきまして、各種交流会などの企画・実施のほか、各種イベントへの補助・支援、情報提供をしております。こうした取組みが行われておりますのも、当櫛引地域審議会からの昨年度の提言に係るものでありまして、今後の全市的な展開を期待してまいりたいと考えております。

本日は「地域コミュニティの活性化方策について」検討項目の前半について協議を予定されているところでありまして、これからもこれらのテーマにつきましては内容が多岐にわたっておりますので、限られた時間で大変だとは存じますが、その分親密な、濃密なご審議をいただきますようお願いを申し上げます、私からのあいさつとさせていただきます

す。どうぞよろしくお願いいたします。

#### 総務課長

それでは3の協議以降につきましては、前田会長から進行をお願いします。

### 3、協議

#### 会長

それでは暫時の間、進行を務めさせていただきます。

本日の協議テーマは先ほども申し上げましたが、「地域コミュニティの活性化方策について」ということでございます。最初に総務課長から資料の確認と、今後の進め方について若干の提案をさせていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

#### 総務課長

それでは協議に入る前に資料の確認ということで、今日皆さんのお手元には次第と第1回の会議録を準備させていただきましたので、ご確認をお願いしたいと思います。

進め方でございますけど、参考資料を送らせていただいた折にもお知らせしましたけども、本年度の協議テーマであります「地域コミュニティの活性化方策について」の検討の際の資料として配布しましたコミュニティ実態調査のまとめにおきまして、昨年度審議会のテーマにさせていただきました結婚対策のほか、本日の次第にもありますけど「①少子高齢化の進行」から「⑤農業後継者対策」のほか、自治組織の活性化など5項目合わせて10項目を地域課題として項目立ていたしております。先に送らせていただきました資料について通して説明させていただきますけど、協議につきましては当初開催回数を4回とご提案させていただいておりますが、議論の時間を十分確保するというので、もう1回増やし、10月上旬に第3回という形で、この10項目を5項目ずつ2回に分けてご協議いただきたいと思っております。このような進め方をさせていただければと思っておりますので、ご提案申し上げます。

それから、先に送らせていただいた資料がお手元に無い方はお知らせいただければと思います。

以上です。よろしくお願いいたします。

#### 会長

ありがとうございました。今、事務局から資料の確認と今後の進め方について重要な提案があったわけですが、ご案内のように地域コミュニティは大変幅が広いので、1回で議論するには時間が足りないのではないかとということで、これを2つに分けてご検討いただきたいということですが、10月上旬に当初の予定に加えて検討していきたいという提案をいただいております。皆さんこの件に関しましていかがでしょうか。そのようにさせていただいてよろしいでしょうか。

— 会場から賛成の声 —

## 会長

はい、では皆さんそのようなことでよろしいということのようでありますので、ただ今提案させていただいた件についてそのように進めさせていただきたいと思います。

それでは、これからの進め方でございますが、先ほど冒頭のあいさつでも申し上げましたけど、皆さんに先にお送りしてあります資料について当局から説明をいただきます。説明は、先ほど総務課長が申し上げましたけど、本日は①から⑤までのいわゆる少子高齢化の進行から農業後継者対策までということで予定しております。資料説明につきましては、お手元に差し上げました資料全部含めて通してということであります。これが45分くらいを予定しております。その後休憩いたしまして、それから本日の協議についてご討論いただくというように進めていきたいと思っております。ひとつよろしく願いいたします。

それでは早速説明に入りたいと思っております。各課で順次資料に基づいてお願いします。

### — 各担当課長、資料説明 —

## 会長

どうもありがとうございました。ただ今当局からそれぞれコミュニティに関わる資料について説明いただきましたが、先ほど開会の時にも皆さんにお図りしましたが、ここで10分間、45分まで休憩とさせていただきます。

### — 休憩 —

## 会長

45分になりましたので、再開させていただきます。

これからの進め方でございますが、若干皆さんにお願いしたいと思っておりますが、1つは、先ほど当局から資料について説明をいただいたわけですが、今日の項目分、①から⑤までの分について何か当局の説明分についてデータの数字等について、質疑があれば若干だけ時間を取りたいと思っております。

それから、後ほどの進め方ですが①から⑤まであるわけですが、1つ1つ検討していくやり方もあると思っておりますが、そうしますとなかなか課題が出にくいということもあると思っておりますので、全体としては①から⑤までオープンにランダムでご討議をいただいて、例えば高齢者なら高齢者で話が出たときに関連してそこに集中して討論していただくような話の仕方をさせていただきたいと思っておりますが、いかがでしょうか。それから後半にトータルにまとめる時間を用意しているわけですが、今日ここでコミュニティの課題についてこういう風にまとめていこうということではなくていいのではないかと考えておりますので、自由にご発言をいただいてご議論いただくということはいかがでしょうか。

### — 会場から異議なしの声 —

## 会長

では、そのように進めさせていただきます。

それでは本日議論をいただく少子高齢化の進行から農業の後継者対策までの資料の中で、確かめておきたいということがあれば若干の時間を取りたいと思います。資料説明について何か疑問はございませんか。

## 芳賀俊之委員

1つよろしいでしょうか。世帯についてですが、これは家が増えただけでなく、世帯分離がかなりあると思うのですが、その辺の数字の押さえ方はどうなっていますか。

## 本間俊司市民福祉課長（以下市民福祉課長）

これは、新築だけでなく世帯分離、あるいは同じ敷地内に住むというような方もいると思います。数の分け方までは押さえておりません。

## 会長

よろしいですか。ほかにございませんか。

それではもしあればぜひ後ほどでもご発言いただければと思います。先ほど申し上げましたように、本日のコミュニティを半分にしただけで、テーマにつきましてご意見をいただきたいと思います。あまり固めようとしないで発言いただきたいと思います。いかがでしょうか。小林さんどうですか。

## 小林良市委員

今日あげられている5つの課題があるわけですけど、例えば少子高齢化の進行であると高齢者世帯の増加となるわけですが、まず基本的なスタンスとしてこういう状況はやむをえないと、これからも続くということで、それによって生じる様々な課題、あるいは解決しなければいけない、地域コミュニティを活性化していく上でどんな施策が必要なのかということを考えることが、まず必要なのだろうと思います。

それとはまた別な視点で、少子高齢化の進行、高齢化は現在の年齢構造が上がって高齢者の割合が増えていく状況はまずいので、少子高齢化の年齢構造を打開するような施策を進めていこうとしているのか、この辺の基本的な施策のスタンスをどのように考えていったらよいのか。少子高齢化はまずいのか、結婚して子どもを生んで若い年齢層を増やしていく施策を進めていくのか、そうは言っても国全体が少子高齢化しているのでやむをえないのでそれを受け入れつつ、でも活性化していかなければならない、皆豊かになっていくという方向に施策を展開していくのか、どうですか。

## 会長

今、そういう意見がありましたが、高齢者対策について話がありましたので、もし高齢者について関連して自分はこう考えているというようなことがあれば、2・3お聞きしたいと思います。それを聞いてからまとめていきたいと思います。

五十嵐さんどうですか

## 五十嵐繁委員

いま、どこの会合に行っても少子高齢化の話が出る。高齢者がいっぱいいて、我々が負担をかけているような感じもします。やはりこれは時代とともに少子高齢化になったと思いますので、今急に変えるということはできないと思います。今一生懸命やっている婚活活動で独身の方々がそれぞれ所帯を持つ。これが一番効果があると思います。今これこれするとすぐ効果が出るというのは難しいと思いますので、高齢者も健康で長生きすることを目標に、私どもはがんばっておりますので、その辺皆さんから色んなご意見を聞きまして、協力できるものは協力していきたいと思います。

#### 会長

はい、ありがとうございます。少子高齢化対策ということで話がなっておりますが、小林委員から施策的にどういうスタンスで臨むべきなのかという質問があったわけですが、佐久間さんは少子高齢化についてどうですか。

#### 佐久間泰子委員

高齢化は私達団塊の世代がもう来年から高齢者になるわけですし、これはどうしようもないと言えばそれまでなんですけど。私はそれよりも30代から50代の方がいかに健康で地域でがんばっていただけるかを考えていただきたいと思います。少子高齢化と言われても、その方たちにがんばっていただかないと、櫛引の活性化にならないんじゃないかと思うんです。

農業にしてもなんにしてもまず体が資本ですので、近ごろ急に思うんですけど、60歳を前に亡くなる方がすごく多いです。病気はさておきまして。その人たちに一番がんばってもらわないと、これから私達が高齢者になっても、支える人口が少なくなることを懸念しています。なんとか30代から50代の方をいかに健康で、地域で仕事ができるような方法をできないかなと思うんです。よく農業でも後継者と言われてますけど、地域を見ると、家の子も30代なんですけど、同級生の方々は結構田舎に帰ってきて農業をやっているんです。家を継いでいるんです。それを見るといいなと思うんですけど、その親を見ると、60歳を前に亡くなる人がすごく多くて、そこをなんとか櫛引でも考えられないかなと。もちろん健診等方法はあるんでしょうけど、私はそここのところが今一番感じているところなんです。よろしくお願いします。

#### 会長

はい、ありがとうございます。地域の地場産業を支えている立場から、澤川さん、ひとつこの辺の考え方についてお聞かせいただければ。

#### 澤川宏一委員

高齢化という言葉そのものを私はあまり好きではないなんですけど、テーマは地域コミュニティですよ。高齢化というのはなんら問題ではなくて、地域の活性化というのが、年配の方なり若者なり、どう向き合うかが大事だと思います。伝統芸能とか一生懸命やっている方もいますし、それが地域の活性化につながっている地域もありますし、あるいは若者にしても8月には各地で納涼祭りや盆踊りを中心となってやっている地域がかなり見受

けられますし。我々はそういったことを評価すべきだし、それを支援するにはどうすべきか。これが我々の課題になるのかと思います。

#### 会長

ではもう一人からご意見を伺いたいと思います。

婚活の事業に取り組んでいる松根の成田さん、少子高齢化についていかがですか。

#### 成田勇委員

我々もすぐ高齢者に入るわけですが、高齢者が病気にならず安全・安心に暮らせる環境を作る。こういうことからすれば、それを支える施策は大変重要になってくると思います。

もう1つの少子化については、なんとか歯止めをかけようとする努力をお互いにしなければいけない課題だということで、今話しにありましたけど、松根塾で庁舎とタイアップしながら婚活支援事業に取り組んでおります。先日男を磨くということで、男の料理教室を講師を呼んでやってみました。松根地区からは2人しか来ませんでしたけど、その外の地区から男性が6人来まして、合計8人で料理を勉強しました。鶏の料理、豚の料理、牛の料理など、4種類の料理を作りました。9月11日には女性を招いて松根の六十里越街道から大滝様、大滝様から公民館に戻るルートを男性の8人と当日参加する男性もいるようですけども、男女約20名でトレッキングし、公民館に帰ってきて料理を作って女性にアピールする、こういうような取り組みをしております。

結局、なんとか結婚をしてもらって、少子化に少しでも歯止めをかけていくような取り組みをしないと地域の自治活動が、私の立場からするとダメになるという危機感があるからこういうことに取り組んでいるわけで、こういった活動をすることによって地域が元気になるのであれば大いに歯止めをかける活動につながっていくのではないかと考えております。ただ、この間の男性陣を見てもそう簡単にはいかないだろうという気はしますが、出会いの場をたくさん作ることがチャンスを広げるということで、私は今年度だけでなく2年3年くらいの期間で取り組んでいきたいなと考えております。

高齢化についても、松根塾としては天狗・獅子舞に師匠格の人たちから若者を育てるために出てきてもらう等、様々な活動にお年寄りの方々が自分の生きがいを含めて参加する場面をたくさん作っていく必要があるということで、塾としては企画・実施をしておる状況です。

高齢化はこれからも進むし、どのような行政的な支援ができるかが大きな課題であるし、少子化はなんとしても少しでも歯止めをかけることができれば、そういうことを地区でも同時に行政的なバックアップをしていくことが大事なのではないかと思い、取り組んでおります。

#### 会長

どうもありがとうございました。

それでは、先ほど小林委員の質問から始まって色々関連したご意見いただいたわけですが、支所長いかがですか。

## 支所長

小林委員さんから発言ありましたのは少子高齢化という課題をどう捉えるかということで現状の合併からの推移が示されているわけですが、こういったものを踏まえての施策を進めていくのか、あるいは少子高齢化を打開していくのかという趣旨のご発言だったとお聞きしましたが、市としてはご案内の通り一昨年に策定しました新鶴岡市総合計画をまちづくりの柱として各種施策を進めているわけです。

この基になるのはやはり人口動向を踏まえて策定していくわけでごさいます、できればこの少子化、当然高齢化も踏まえた施策ということでありまして、決して高齢化が良くないというようなイメージではございません。ただ、急激な少子化というものは、当然地域の活力を弱体化させるわけでごさいます、できるだけそうならないように各種施策を進めていくというようなスタンスで様々な取り組みを進めているということで、具体的には子育て支援、婚活、あるいは産業振興等々があるわけですが、改めて申し上げるのも恐縮ですけど、このように考えておりますのでぜひ審議会におきましてもそうしたスタンスといいますか、考え方の基に課題解決の方向性を議論いただければと思います。よろしくお願ひします。

## 会長

はい、小林委員いかがですか。

## 小林委員

支所長のお話を聞いてその通りだと思います。少子高齢化ということで1つにくくって表現するものですから、高齢化は先ほどもありましたように、年齢構造の、櫛引でもそうだと思いますが、昭和21、22、23年の団塊の世代が一番膨らみがあって、それが間もなくどんどん65歳になって高齢者の領域に入ってくるわけです。従って、高齢化は現状に手を打って解決するものではなくて年齢構造でやむをえないわけですが、そういう状況になった時に様々な課題が出てくるだろう、で高齢者の皆さんがこの地域に住んで良かったなと思えるような地域社会をどうやって作っていくかということだと思います。

少子化はこれからの問題で、何年何人生まれるかは分からないわけで、行政的に様々な施策、あるいは地域社会の取組み等によって改善されるかもしれない。ですから現状を受け入れるのではなくて、やはり様々な施策を持ってなんとか打開しなくてはならないということで、少子高齢化と1本で表現しているけど、中身はそれぞれスタンスが違うということで質問させていただき、今支所長からコメントあったとおりでと思います。以上です。

## 会長

はい、どうもありがとうございました。

実は先ほど当局からいただいた説明の中で、地区別人口世帯の推移の、平成3年からの統計を見させていただいたわけですが、少し荒っぽいまとめ方かもしれませんが、施策として人口対応が顕著にできたのは結局住宅造成が1つあったのではないかと。それは下山添と丸岡と三千刈であります。私は地域の自治会長を務める立場で、丸岡は164世帯ですけ

ども、自治を進める上ではもう 40 世帯くらい増加してもいいのではないかといつも思っております。これは単に私の考えでなくて地区の運営委員会でも、40 世帯増えても丸岡くらいの自治体であればまとめることができるのではないかと話をしています。要するに、住宅地を造成してそこに来る人は若い人なわけです。そうすると子どもがいっぱい増えます。そして 20 代、30 代の人たちが来るわけですから地域に定着する時間が長い。こんなこともあって、3 年前の丸岡の地域づくりの会議で水を向けたところであります。それはなかなか今の経済情勢もあるし、地域の振興の形としてそういうスタンスでいいのかということも当然あるわけで、増えればいいのかということもそう簡単なものでもなくて、当時そういう提案をしたところ、みんな高齢化してきてなんとか支援していかなければならないという形になっております。

ですから、人が減っていく、出生数が減っていくという流れがあるわけですし、こういう中で、今日は阿部さんお出でですか。阿部さん、若者が地元へ定着したいという魅力、土地柄としてどうなのか考えをお聞かせください。

#### **阿部元喜委員**

僕と近い年代の人は就職と同時に関東に行って、地元を離れてしまっているんですけど、盆・正月に帰ってきた時に、懐かしさに癒されてまた帰っていく、帰って来た時に今までと違ったような懐かしさを感じていたので、櫛引だから、というのはよく分かりませんが、懐かしさを感じてまたいつか戻って来たいと思えるような、そして戻った時に受け入れてくれるような体制・姿勢が必要ではないかと思えます。

#### **会長**

ありがとうございました。懐かしさを感じてというのが 1 つの U ターンの魅力になっていて、それを受け入れてくれるようにあってほしいと思えます。

#### **成田勇委員**

先ほどの説明の中で、櫛引地域の人口が減っていく背景が出生数の減少。これは実態が分かっている。転入数の減少とありますが、その中身をどのように把握されているか教えていただきたい。

#### **市民福祉課長**

はっきり申し上げまして、内容までには調査は及んでおりません。おそらくは櫛引から進学等で転出した方が転入してくるという方、また鶴岡にいる方々が宅地造成の関係で下山添に移住してくるといった事が考えられます。

#### **成田勇委員**

例えば昨年 159 の転入があったと。その中身についてです。なぜそういう事を申し上げたかということ、学生らが外に出て U ターンしてきた、その人たちがどのくらい占めているかだけでなく、働き場として櫛引地区に居住するようになったという傾向があるのかなのか。転入数の中身がどうなのかという議論ができると思うのです。例えば、後で質問したいと思ったのが、専業農家が増えているのですよね。実際どういう中身なのか非常に

に興味があるわけです。ある地域に特別な特色があつての数字なのか、その背景はどういうのか、この辺を含めて転入数の中身を明らかにしてもらおうと、私なりに議論できると。

#### 市民福祉課長

中身につきましては、先ほども申し上げましたとおり調査は及んでおりませんので、もし資料を見てどこから転入してきたのか、どのような原因であつたのかもし分かれば、次回でもお示ししたいと思います。

#### 会長

はい、どうぞ。

#### 芳賀俊之委員

今の質問に対する私なりの意見と進め方について意見を述べさせていただきたいと思います。

専業といつても色々ありまして、高齢化によりまして専業にならざるを得ないという人もいる事を頭に入れなければいけません。規模が大きい人が増えていると思っているのは早計だと思います。

それと結論を出すのではなくて、今日は市が持っているデータを見て話を進めるのは筋だと思いますので、結論を出すような話の進め方は止めていただきたいと思います。

#### 会長

それでは、逆側の席の方々の意見を聞いてみましょう。どうですか、今日のテーマについてご意見ありましたらご発言いただけませんか。

#### 松浦安雄委員

このテーマについて、様々な調査の結果を提出していただきましたが、これらのものは、我々はなかなか見ることができないものですので、大変参考になった良い資料だと思います。

その中で、世帯数は増えているけど人口は減っている。当然そうならなければならない理由もあるわけです。交通の便が悪い、働き口がないなど、そういうことは十分分かるわけですが、それよりもこの結果を見て、この地域にどうして定住できないか我々は掘り下げて考えなくてはいけないと思うんです。

よく私に相談が来ます。結婚したども出てぐどや、こういう相談が年に5、6人来ます。その中で私が言うことはまず経済のあり方を考えた方がいいのではないかと思います。外に出て行くと様々なお金がかかります。そういうことを考える必要があります。そうして経済的にだめになると離婚する。こういう話をすると考え直す人もいますし、夫婦ですからお互いの言い方が悪かったことで、離婚の原因にも大きく影響すると思っております。夫婦がお互いに自由なことを言うことが楽しいことだと思いますけど、楽しいことと良いことは違うということを皆が教える必要があると思いますし、そういう社会を皆で話し合う機会が大事だと思います。結婚すると楽しいことばかりだと、我慢することは苦しいことだと、そういうことを平然として相談した人がいてびっくりするようなこともございま

すし、そんなことを合わせましてまず実態をよく聞いてデータを見て、このデータはどうして世帯数が増えて人口が減っているのか、そういう状況を具体的に分析する必要があると思いますし、論ずることが大事だと思います。皆意見を述べて、データを読んで地域のコミュニティを変える、守っていくという方向に行くのがこの審議会の大きな役目だと私は考えます。

3年ほど前でですけど、東荒屋の天狗・獅子舞が伊勢の皇大神宮に奉納されました。その時、地域の若者たちには協力的でない人もいたのですが、奉納してからは変わりました。この文化はなんとしても守らなければいけない。伊勢の境内で涙が出てきました。若者が境内で舞えた誇り、この伝統を守ってきた自分の誇り、コミュニティを守っていくのは、教えること、見せること、聞かせること、やってみること、そうしたことを我々が伝えていければありがたいことだと思っています。

データを参考に良いものを残していく、そういう方向にってもらえればこのデータを作り上げてくれた地域の現状を把握してくれた方々の参考になると思っています。

**会長**

それでは渡会さん、今日のテーマについていかがですか。

**渡会昇委員**

先ほどから話になっております少子高齢化の問題ですが、これは切り離して考えるべきだと思います。最近テレビで土曜日9時からBSで「イタリアの小さな村」という番組があるんですけども、だいたい75歳くらいの皆さんが出てくるんですけど、昔の日本みたいな家族制度のようなものが色々出てきて、こうあるべきだと思っています。

なぜ少子化になったかと言うと理由があるわけです。先ほど芳賀さんも言われましたけど、前回も言いましたが農家に対しても、実行組合・生産組合の集まりで、皆が集まったら、今度は、誰が百姓するなやという話になるということも聞いてますし、これはやはりそれだけのことを出来なかったのが原因じゃないかと思います。なんとか、農家の田圃・土地を保全してやるができないだろうか。婚活の問題もそうですが、基本的なことを改善していかないと一生懸命やってもなかなか大変だと思うんですよ。例えば朝早くから勤めに行き、遅くに帰ってくるとかそういう問題はどこの地区にもあるんですけど、40代で独身の農家の長男がいるわけですね。どこの地区にもいると思います。ですからなるべくそういう方向性を見出していないといつになっても同じだと思います。

ただ、先ほどのこれからの問題は、家のお袋も85歳になりますけど、趣味のある人となりの差がだいぶ大きいんですね。一生懸命働いてきただけの人と、色んな趣味をいかしている人との違いはだいぶある。参考になればですけど、土曜日の9時から「イタリアの小さな村」という番組ぜひご覧ください。

**会長**

ありがとうございました。ほかに。

**畑山久恵委員**

要望です。事前にいただいたデータを見ますと少子高齢化により、担い手不足、共同作業、伝統芸能の継承が難しくなっていると、地域のつながりのあるコミュニティが弱体化していくこと、そしてその課題が地域とか集落でそれぞれ違いがあると理解できました。一市四町一村が合併して以来、地域の自立、協働が聞こえてまいります、企業やNPOの力が弱い中山間地域では行政の支援がないと回復できない状況であります。

少子化対策の意見でございますが、こうした異なった地域課題を持つ集落ごと個別に指導する支援体制を作っていただくことを要望したいと思います。どこでも同じような指導では、現在の問題を解決することは難しいのではないのでしょうか。どこの集落も元気、活気が無いように思います。庁舎の支援、指導をよろしくお願いします。

#### 会長

今の件について当局から何かありませんか。

#### 総務課長

答えになるか分かりませんが、資料1―3の地区別人口・世帯数の推移をご覧いただきたいと思いますが、今話に出た中山間ですが、宝谷地区や樺代地区というのが人口の減少率が平成元年と比べて半分以下になっており、たらのき代ですと61.9%という数字がありますけど、その他の地域を見ますと山添地区も黒川地区も70～80%台です。下山添、丸岡のように造成した地区は別として、外の地域は同じような傾向を示しております。そういった意味では櫛引地域に関していえば、山添・黒川の区別がなく、同じ傾向にあると感じたところであります。宝谷・たらのき代は減少率が高いのでそういう考えもあるでしょうが、トータル的に対策を考えていくという考えもあると思います。

#### 畑山久恵委員

分かりました。よろしくお願いします。ただ、何かにつけて中山間地は遅れがちなので、少しでも力を入れてほしいという意味です。よろしくお願いします。

#### 会長

平藤さん、いかがですか。

#### 平藤博巳委員

私はこの17ページの資料、5つのテーマとは関係ないかと思いますが、櫛引型地域のコミュニティの維持、活性化ということから考えれば初めて21地区の自治組織の決算状況が明らかになった資料で、大変参考になると思います。これを見ますとやはり戸数が増えた下山添は1世帯12,000円くらい、丸岡は23,000円でスケールメリットによる自治会費の負担が少ないという傾向が出ていると思います。ですから1つの自治組織の戸数がどのくらいが理想的なのか。それぞれこれまでのいきさつがあると思いますが。できればこの中の資料に、町内会事業関係支出の消防防犯交通費ということでもありますけど空欄になっている地区、大きくかかっている地区、消防団、地区の分団・班に対して各地区が負担している経緯、地区の予算に計上されないで別個に集めている地区もありますし、計上されている地区もありますし、それらを明らかにすると、1戸あたりどのくらいの負担をしてい

るのか出てくるわけです。公民館会計は別枠でありますけど、公民館の予算書・決算書とあるわけですので、せっかくここまで苦勞して作られたのであれば、もう少し苦勞していただいて、そういう資料があると非常に参考になると思いますし、世帯数は増えていますが、高齢化が進んでいることは、いわゆる年金生活者が増えているわけで、非常に収入が少ない構成員です。これからそのウェートが大きくなっていく中で、どのくらいの負担をしていただいて地区を運営していくかということはこれからの課題になるかと思います。

今までの継続でいいということではなくて、市内と比べて、他の地区と比べてどうかということを見てみますと、おそらく旧市内と比べるとかなり大きな負担をして自治会の維持をしていると思いますし、これを軽減していく方向を合わせて考えていく必要があると思います。今日の5つのテーマと直接関係無かったようですけどそんなことを考えました。よろしくをお願いします。

#### 会長

秋山武弥さん、いかがですか。

#### 秋山武弥委員

どこの地区も高齢者が増えていることは事実だと思います。また、少子化の方は、地元に残らないで他所に出て行く若い人が増えていると思いますし、結婚しないで40、50代に突入している方がどこの地区にも居るかだと思います。それで少子化の傾向が顕著になっているのだと思います。若い人が地元に残る方策をぜひ検討してもらいたいと思います。若者がいないために地域コミュニティが停滞している傾向がありますので、若者が他の地区に出ない、地元に残るようぜひお願いしたいと思います。

#### 会長

それでは地域の体育活動を進めていくうえで体育協会の会長さん、金内委員さん、一言。

#### 金内勝雄委員

1つ報告ですけど、土日に鶴岡市民総合体育大会がありました。櫛引の大会で優勝した地区が参加してきました。まさか残っていないだろうと思ってサッカー場に行ったら、櫛引が決勝に残っていました。ちょうど良かったので、バスケやバレーを応援しながらサッカーも応援しました。鶴岡の1中、2中、3中学区皆破って優勝しました。若い元気のいいのが櫛引にこんなにかと思えるくらい活躍していました。これが少子高齢化に対し、この若者たちはどうかと思いました。ほとんどが若い女房と子どもを連れていて、皆結婚している。こういうのがどんどん増えれば櫛引の少子化はなんとかなるかなと。結局少子化、高齢化は話題になっているけども、まず1つは結婚できない40、50代の男たちになんとか結婚してもらおう。これが一番大事。これから行政、民間協力しながらやっていると。2つ目は、若い男女が地区に留まるか、または櫛引に帰ってくるか、こういうことができないか。昭和60年代工業団地を造りました。そして下山添と丸岡に住宅団地を造りました。人口増えました。少子高齢化が一時解消しました。今丸岡はもう高齢化が進んでいます。20年前の子どもがいっぱいた時代の人たちが皆高齢化になっています。今はバブルの時

代と違って、工業団地を楯引に造るわけにもいかない、今度は農業です。これだけ土地があって、これだけ技術がある。今田んぼをやっている 70 代に代わって若者が入ってくる道がないかなと。この辺が少子化への 1 つの切り口だと思います。

それから私も渡会さんと同じく、イタリアの番組を見ていますが、崖っぶちの坂道を大変そうだなと思いますが、お年寄りが安全・安心で豊かな心で穏やかに楽しく長生きしている。あれが高齢化社会の望むべき姿だと。そうするとこの安全で安心で穏やかで長生きできる世の中のためには、ここにあるように老人施策を一生懸命やるべきだろうし、また趣味もいいたらうし。決してイタリアの人たちは若い人と暮らしていないんですね。孫が一週間に 1 回とか娘夫婦が 1 ヶ月に 1 回来るとか、それで楽しく過ごして帰っていく。また 1 ヶ月してやってくる。こういう時代になる気がします。一緒に住めれば一番です。けど住めなければ悲しい、地獄だとなるとどうしようもない。こういう穏やかな長寿の時代になるように地区が諸手をあげてやれるような施策をして、安全・安心、穏やかな老後のためにやるのが高齢化社会ではないかという気がします。

それからなんといっても若者が帰ってくる、または出て行かない、定着するような地域、これをなんとか我々あげて考える。どうしようもないと言わないで、ひとつ考えていかないといけない。

新田さんの今日の新聞の記事に、歯がみして酒田に若者が残るような社会を作るための仕事に一生を捧げてきた。50 年やってきて、まだまだこれからもやる。こういうことを我々大人が取り組んでいくところが 1 つの方策だと思います。そういう時代でないと言わないで、若者の農業人を作っていく、若者が戻ってくる時代になればいいと思います。

## 会長

ありがとうございました。遠藤さん、お願いします。

## 遠藤一男委員

少子高齢化でございますけど、家には子ども 2 人います。地区には小学生が 8 人しかおりません。中学生はいません。地区としては宝谷八木節の保存会では、親子一緒にやっているのが実情です。少子高齢化といってもテーマが大きいものですから、私もよく分かりません。丸岡地区や下山添地区に団地を造ったものですから、宝谷から下りてしまい戸数が減り、今は 28 戸になっております。

働く場所に近い所に人が増えていくような傾向にあると思いますし、私の場合は後継者はおりますけど、職業柄全然違う職業についておりますから農業をやれとも言えない状況にあります。車の運転手をしているものですから、夜も走るもので、日中寝てるわけで、それを起こしてまで農業やってくれとは言えないです。

それから、お聞きしたいのですが、高齢者の支援システムで似たような事業、区長会でもチラシが来るわけですが、社会福祉協議会と市民福祉課から似たようなものがきて、どっちがどっちかなかなかつかみづらいです。

とりとめもない話でしたけど。

## 会長

はい、今遠藤委員からいただいたお話で、佐藤主幹、事業は当然分けて行っていると思いますので、コメントいただけますか。

## 佐藤巖市民主幹

市民福祉課佐藤です。今お話ありました件ですが、まず1つは社会福祉協議会と市の健康福祉班で色々な事業をとり行っています。そういった中で、紙や色々な形で皆様に情報をご提示なっていると思います。非常に分かりにくいのが実態であります、連絡先がどこであるかという中で、例えばいきいき健康クラブ、こばえちや会ですとか様々あるかと思えます。なるべく分かりやすく皆様方にご連絡しますので、連絡先に問合せいただければと思います。ただ、先ほど申し上げましたように、各地区で様々なやり方・考え方をされていると思いますので、そういった点では分かりにくい中でございますけど、なるべく多くのメニューから選んでいただくといったことも踏まえて情報が流れるかと思えますので、ひとつよろしく願います。

もう1点は、保健福祉推進員会でこの8月から安心カードを実施しますとお話したと思いますが、その集まりは昨日させていただきました。事業については社会福祉協議会、包括センターなど様々関係する組織がございまして、皆で一緒になって一人暮らしですとか高齢者の皆さんの安心をサポートするための方法を「安心カード」という形で事業を進めていきたいと思っておりますので、その中で色々な団体さんにも声かけがされていると思えます。保健福祉推進員で区長さんや民生員の方にこの安心カードを実施するためにいつ集まりましょうという声かけをお願いしておりますので、またお話があると思えますのでよろしく願います。

## 会長

よろしいですか、はい。最後にもう二方からご発言いただきたいと思いますが、まずは小林貢さん、ご発言いただきたいと思えます。

## 小林貢委員

私は今日初めて地域審議会に出席させていただきました、どういう進め方でやるのかなとさっきから見えてまいりました。今日は少子化の5項目について話し合われましたけど、私は黒川の出身でありますので、まず黒川能のことをお話しなければならないと思えます。黒川能は500年の伝統はありますけど、これまでの道は平坦なものではなかったと先輩から聞いております。戦争中は人もいなくて、知恵を出しながら今の黒川能を続けてきたと聞いております。現在は子どもたちがなかなかいないので非常に困っております。この櫛引地区には田んぼや果樹がありますので、それらを若い人たちにどういう方法で伝えていくか、それが大切だと思いますし、これから今日のデータで説明されましたことを1つ1つチェックして、どんな問題があるのかこれで終わらないで、次に今日話し合われたことをまとめてもらえればありがたいと思えます。

## 会長

ありがとうございます。それでは4時を目途に進めてまいりましたが、最後に齋藤平さんにご発言いただきたいと思います。

#### 齋藤平委員

それでは、私 PTA 連合会を代表して来ておりますので、まず少子化に関して意見を述べたいと思います。

資料の8ページに推移のデータが出ております。先ほど説明いただきましたけど、平成28年度までの児童数が出ておりますが、22年からの対比でこれだけ少なくなっておりますが平成10年や元年と比べますと半分になると思います。今までだと南小が一番少ない人数できていたわけですけど、東が一番少なくなっていくという数字が出ていて、私は東地域に住んでいるものですから、今小林委員さんの黒川能の後継者の話を考えますと大変心配な事態なのかなと思っております。私は子どもを三人育てましたけど、この櫛引地域の子育てをする環境が恵まれている土地なのかと考えると、私の上の子どもが今年20歳になるんですけど、当時0歳から子どもを預ける施設がなくて、鶴岡市の私立の保育園に預けざるを得なかったですが、今は0歳から預けられるようになっております。今待機児童がどうなっているか分かりませんが、なにも心配なく子どもを預けられる環境があるのか。今までですと櫛引地域、特に黒川地区は三世代同居率がとても高い地域で、まず子どもを産んでもお婆ちゃんが見てくれるという状況でしたが、時代の変化とともに、お婆ちゃんも働かなければならなくなり、0歳から預けなければいけない状況ができていると思うんですけど、そういう時に子どもを生んで預けられる環境整備を外の地域に負けないように、櫛引地域も先々に進めて行っていただきたいと思っています。

あと、婚活もやっているようですけども、工業団地関係が今年の春も一社撤退したのですが、若い世代が櫛引地域に働きに出ているのか、鶴岡市内、酒田までか、昔とどういいう変化があるのかとかそういうデータを教えていただきたいと思いますし、身近な所でいい働き口があればもっと安定した生活ができて結婚がしやすくなるのかなと。結婚すれば当然子どもも産もうという気になると思いますので、企業誘致を進めていただきたいと思いますし、若い人が本当にここに住みたい、子どもを産みやすい、育てやすいという櫛引地域にしていきたいと思います。

#### 会長

ありがとうございます。今日、一人早退されましたが、残っていただいている委員全員からご発言をいただきました。どこから手をつけたらいいのかなかなか大変で、特に今日のテーマは少子の問題、高齢化の問題色々ありまして。総務課長、この地域コミュニティの実態調査は皆さんに配布されていますか。渡っていますね。私も今日これに目を通してみたいのですが、平成20年から22年までの実態調査で課題に対する方向性のようなものも、データを基にまとめられているようであります。これから日程を決めていただきますが、次回コミュニティの課題がもう半分残っております。今日まとめることもいたしませんでしたし、まとめる日程はとってあるということでもありますので、皆さんからも地

域コミュニティの実態調査に目を通していただきたいと思います。

今日は予定の時間を若干まわっておりますので、この次の日程を決めさせていただきたいと思います。コミュニティを2回に分けたところもあって、10月に第3回の地域審議会を開催させていただきたいと先ほどお話ありましたが、10月上旬あたりにさせていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。事務局から何かありますか。

**総務課長**

お願いできるとすれば、10月7日に3回目を開催させていただきたいと考えております。

**会長**

10月7日、午後となるわけですが、いかがでしょうか。よろしいですか。それぞれにお忙しい中だと思いますが、ただ今事務局提案させていただきました、第3回は10月7日(金)午後ということで決めさせていただいてよろしいでしょうか。それでは次回はこのようにさせていただきます。なお、今日と次回にコミュニティの課題がブリッジしているわけですから、言い足りなかったことがあれば次回補足させていただいて結構です。

**4、その他**

**会長**

今日はここまでにさせていただきたいと思いますが、その他は事務局から何かありますか。

**総務課長**

こちらからは特にございません。

**5、閉会**

**総務課長**

それでは以上をもちまして、今年度第2回櫛引地域審議会を終了させていただきます。  
本日は大変お疲れ様でした。

16:10